

マグダラの マリヤは、イエス様と  
いっしょに 旅をした 女性たちの 一人です。<sup>1</sup>  
マグダラの マリヤは、イエス様に、とても  
むずかしい 病気を いやしてもらったので、  
深い 感謝の 気持ちから、イエス様と いっしょに  
留まりました。

<sup>1</sup> マリヤは、マグダラという 町の人だったので、  
「マグダラの マリヤ」と  
呼ばれていました。

<sup>2</sup> ルカによる 福音書 8:1-3 参照



他にも、イエス様と いっしょに 旅をした  
女性たちの中には、ヘロデの 家令 クーザの  
妻である ヨハナ、それに スザンナという、  
二人の 名前が 記されています。

新約聖書に 登場する

信仰の 人：

マグダラの  
マリヤ

マリヤは、イエス様や 弟子たちの 身の回りの  
世話を していた 女性たちの 一人である  
と 記録されています。彼女たちは、みんなが 旅を  
して 布教するために 必要な 物を、経済的にも  
助けていました。<sup>2</sup>

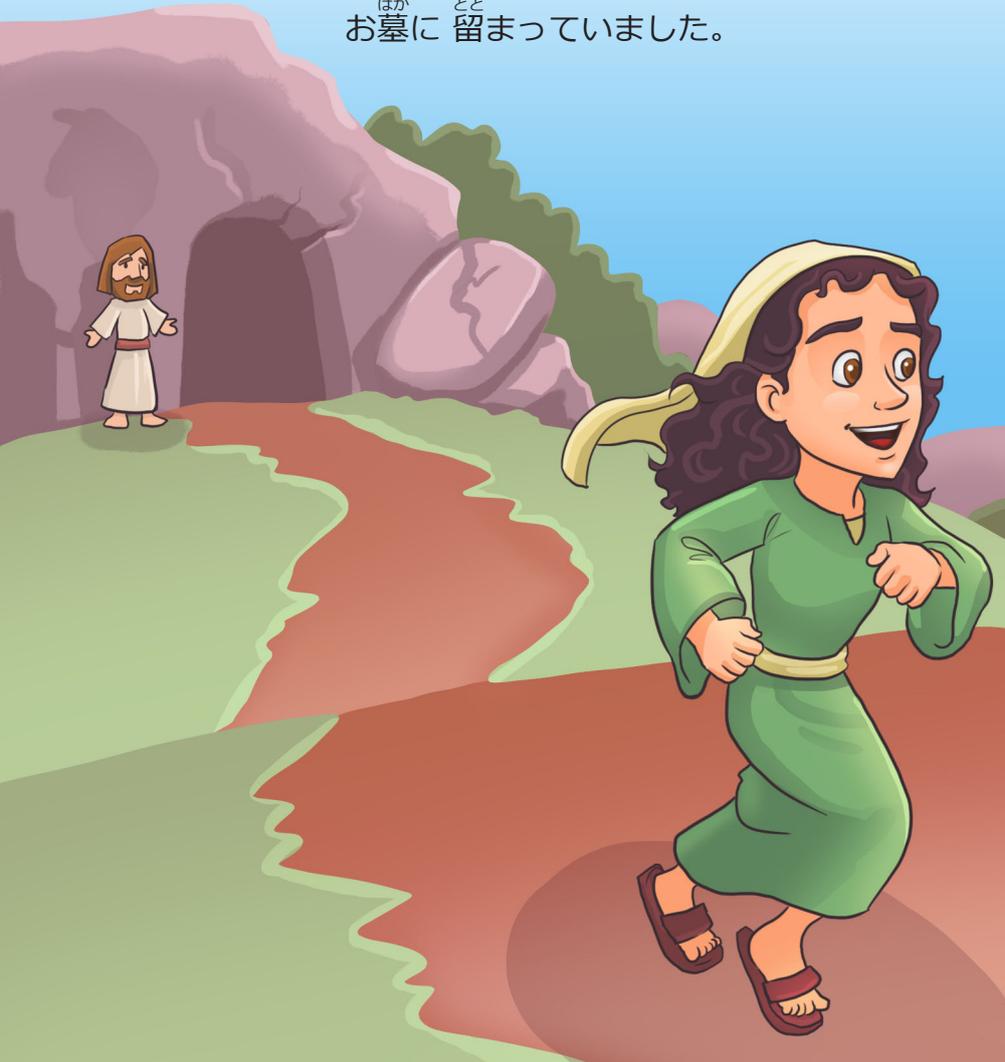




イエス様が十字架に  
かけられた時、マグダラの  
マリヤや イエス様の母親の  
マリヤ、それに他の女性たちも、  
深い思いやりと忠誠心から、  
イエス様を元気づけるために  
そばに留まりました。<sup>3</sup>

イエス様が亡くなると、  
マグダラのマリヤは他の  
女性たちと、イエス様の体に  
埋葬の処理を施しました。

マグダラのマリヤに関連する最高に素晴らしいお話は、イエス様のいなくなったお墓の前で、  
イエス様が彼女に現れたことです。マリヤは、もう一人の女性と一っしょにお墓に行ったのですが、  
お墓の入り口の石は転がされ、お墓は空っぽでした。マリヤは、シモン・ペテロとヨハネのところへ  
行って、だれかがイエス様の体をどこかに移したと伝えました。そこで、彼らは一っしょにお墓に  
もどって見てみたのですが、お墓はやはり空でした。弟子たちは家へもどりましたが、マリヤは  
お墓に留まっていました。



マリヤがそこに立って泣いて  
いると、イエス様が現れ、どうして  
泣いているのかとたずねました。  
マリヤは、彼が園の管理人だと  
おもって、イエス様の体がどこに  
移されたのかとたずねました。  
イエス様がまた口を開くと、  
マリヤは彼がイエス様である  
ことに気付きました。マリヤは、  
どんなにうれしかったことでしょう！  
それからイエス様はマリヤに、  
弟子たちの所へ行って、ご自分が  
生きていることを伝えなさいと  
言ったのです！<sup>4</sup>

<sup>3</sup> ヨハネによる福音書 19:25 参照

<sup>4</sup> ヨハネによる福音書 20:1-18 参照